

## 2月のはりま読書の会で紹介された本

書名	著者	請求記号
断腸亭日乗 1～7	永井 荷風／著	915 ナ
こんなおみせしってる？	藤原 マキ／さく	E フシ
つげ義春集 (現代漫画12)	つげ 義春／著	726 ケン 12
たとえ悪者になっても	佐藤 真澄／作	64 サト
願いがかなうふしぎな日記 1～4	本田 有明／著	91 ホン
書店員は見た!	森田 めぐみ／著	024 モ
読書のデモクラシー	長田 弘／著	
ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力	常木 蓬生／著	493 ハ

### ～ 読書会 memo ～

今回も、スタッフを除けば参加者は3名という、少し寂しい人数での読書会となりました。しかし内容は盛りだくさんで、終わり時間までたっぷり話がはずみましたよ。

『断腸亭日乗』は、作家・永井荷風の日記ですが、荷風の人柄や当時の世相なども窺える貴重な作品。1917年から戦時中も、1959年の死の寸前まで40年以上書き続けられた日記には、どんな文章が綴られているのでしょうか。

漫画家のつげ義春について読んでいるという方からは、図書館でつげ義春さんの作品を所蔵していることに喜んでいただき、嬉しく思いました。

また、偶然手に取った『こんなおみせしってる？』という、卯屋さんや豆腐屋さんなど、レトロなお店を紹介する絵本が、つげ義春の奥さんの作品だったことを知り、驚いたのだそうです。こんな出会いがあるのも図書館ならではのですね。

『たとえ悪者になっても』は「処分するしかない」と言われるような危険な犬を訓練し、「更生」させる犬の訓練士についての作品。外部から暴力だと言われても、犬たちが元の家で生活できるよう厳しく訓練する姿には、敬意を感じると紹介されていました。

紹介された本に合わせ、日記の楽しみや続ける難しさ、漫画誌ガロの影響、しつけの難しさやペットの話など、様々な話題が上がりました。

次回はどんな読書会になるのでしょうか？みなさまもぜひ、お気軽にご参加ください。

**次回は 3月15日(日)午前11時からの予定です。**

**※変更となる場合があります。HP等をご確認ください。**